

令和6年度 大学・附属学校園連携事業推進経費 成果報告書

所属名	理数情報教育系，附属幼稚園
研究課題名	数量関係の指導における幼小接続の検討―数の分解に係る「遊び」の姿を通して―
研究課題概要	本連携事業では，園児(年長児)の数の分解に係る「遊び」の姿から，幼小接続の視点を探ることことを目的とし，以下の取り組みを進め，その成果を整理した． 1. 「こつぶちゃん」¹⁾(豊かな数感覚を育て、見えないものを想像することの楽しさを実感できる教具)を用いて，数(5, 6)の分解に係る園児の様相を調査する．(対面による個別の事前調査)  図 1 こつぶちゃん(柳本・植田 2016) 2. 大学教員と幼稚園教諭の協働により開発した「遊び」を用いた実践を通して，園児の「遊び」の姿を捉える．(大学教員もしくは学生との対面による遊び)  図 2 開発した遊び(左:遊びⅠ 右:遊びⅡ) 遊びⅠはピン球が1つずつ順に転がり，遊びⅡはピン球が同時に転がる特徴がある．本研究では，遊びⅠでは5の分解，遊びⅡでは6の分解に係る活動を展開した．遊びⅠ，Ⅱとも，転がしたピン球が青エリアと白エリアに分かれ，青エリアに入ったピン球はいくつ入ったかが見えるようになっている．一方，白エリアはすぐに壁を立てていくつ入ったかが見えないようにする．ワークシートの青エリアには見えているピン球の数だけシールを貼り，白エリアの見えていないピン球の数はイメージしてシールを貼った．  図 3 遊びで活用したワークシート 3. 遊びの実践後に「こつぶちゃん」を用いて，数(5, 6)の分解に係る園児の様相を調査する． 4. 大学教員と幼稚園教諭の協働により園児の姿を検討し，幼小接続の視点を探る． 5. 4で検討した幼小接続の視点をもって，1～3で得られたデータを分析する． 1) 柳本朋子・植田由三子(2016)，「10までの数の分解」練習教具こつぶちゃん，新学社
研究課題の構成員 (リーダーに※)	※東尾晃世(理数情報教育系)，藤田真依(理数情報教育系) 吉永純子(附属幼稚園)，矢田美佳(附属幼稚園)